

行政視察報告

(地域振興 委員会)

<視察目的>

少子高齢化の進展により人口減少化が各自治体で進んでいる。本市も例外ではなく、自然減・社会減を合わせて毎年 400 名～450 名の人口減少となっている。本市の基幹産業のひとつである農業は、平野部で大区画ほ場整備は進んでいるものの、中山間部では大きな進展はない状況である。中山間部では特に高齢化が進み担い手不足により、離脱や耕作放棄地の増加などが進みつつある。また、林業は高性能林業機械の導入により作業性は良くなったものの「人手不足」や「採算性」に課題を残している。

今後の農林業の活性化の観点から先進地の取組みを視察し本市の取組みに活かさないか研究・検討をする。

また、観光振興、防災、渋滞緩和の観点からスマートインターチェンジの早期実現が望まれる中、本市のスマートインターチェンジの実現性を検証するため先進地の取組みを視察し研究・検討をする。

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
6/28	兵庫県朝来市	日本土地山林(株)	○高性能林業機械の活用について
6/29	滋賀県長浜市	長浜市役所	○スマートインターチェンジについて
6/30	兵庫県南あわじ市	南あわじ市役所	○あわじ島まるごと食の拠点施設について

<視察概要報告>

1. 日本土地山林株式会社

◆対応者

山林事業部 (次長)

◆場 所

日本土地山林株式会社山林事業部会議室 兵庫県朝来市新井 777 番地

◆概 要：(資料別紙)

○高性能林業機械の活用について

《説明概要》

- (1) 急傾斜地での集材について
- (2) 施業の現状について

(3) 今後の課題及び新たな取組みについて

◆質 疑 (抜粋)

Q. 高性能林業機械の移動に必要な作業道の幅員は。

A. 3m 程度。

Q. 集材の架線を張るための資格はあるのか。

A. 林業架線作業主任者という国家資格がある。

Q. 1 回の架設で何日間作業を行うのか。

A. 1 日から数日間。

Q. 収益はどうか。

A. 機械導入時は黒字になる見込みであったが、林業関係の補助単価や材価の低迷により実際はかなり苦しい。

Q. 社有林に 1~5 齢級の木がない理由は。

A. シカの被害により苗が全滅したため新植を諦めた。そのため間伐のみでやりくりしている。

Q. 高性能林業機械導入にあたって市からの補助はあったか。

A. 国の補助金はあるが、市の補助金はなかった。県内他市町村で補助しているところもあるとは聞いている。

Q. 木材価格を上げるためには何が必要だと思うか。

A. 無垢材の需要を上げることが重要という話が出ている。ただ、柱材は集成材に取って代わられつつあるので、内装材への利用を広げていくことが必要ではないか。また、チップ材の需要が高まり値段が上昇すれば全体の価格を押し上げると考えている。

◆考 察

【澤田】

日本土地山林(株)は、山林事業を始め木材流通・加工事業、住宅事業、不動産事業、観光事業、文化事業などを行っている会社であり、山林事業は兵庫県朝来市で行っている。所有山林保有面積は、1,902ヘクタールあり、このうち人工針葉樹林は62%、天然広葉樹林は32%である。

山林の計画的な保護・育成、地域の環境保全を図るため、世界基準の「FSC森林認証林」を取得している。この方針から市場競争力のある木材の産出や資源保護の観点から、間伐を繰り返しながらの超長伐期施業を中心に行っている。また平成28年に朝来市内において木質バイオマス発電所が稼働したことに伴い、今まで捨てていた端材や末径6cm未満の木材をチップ材として出荷するようになった。

施業地は数百ヘクタールの纏まりのある大団地から構成されているが、非常に急峻な地形や大径木の増加などにより車両系の運搬は困難である。このため平成26年度から作業システムを車両系から架線系に変更するとともに新しい林業機械を導入し作業の効率化を図っている。車両系システムと比較すると架線系システムは集材距離が飛躍的に増加し、従来搬出不可能だった山林分からの搬出も可能となった。しかし、ワイヤーなどのライン

を架設する段取作業に時間を要し一人当たりの生産量は下がる傾向となっている。今後ラインを架設する方法次第では段取り作業の低減は可能である。

今後の新たな取組みとして、ラジコン操作で行う新たな機械導入や航空レーザー測量データの活用による架線設置のための測定の省力化なども進めている。

最先端の林業機械を所有する日本土地山林（株）であるが、山林事業において経営状況は苦しい。その背景にあるのは安い木材の価格である。100ドル/m³という木材の世界相場があり、30年で50mにもなるニュージーランド木材と比較すると簡単には太刀打ちできない。また新たな植林を断念せざるを得ないほど鳥獣被害（鹿38,000頭/年）があり、今後の展開が危惧される。

日本全体の林業生産額は、2,200億円/年と言われるが、価格の見直しや合板やチップなどの生産量を上げるような用途の拡大が無ければ、林業事業の活性化は難しいと考える。



【佐伯】

面積（社有林1,940ha）、素材生産量（間伐材のみ4,900m³）及び機械の大型化は想像以上であった。しかし、林業経営は難しく、今後の展開に明るさが見出せない現状を感じた。作業員の「つぶしの利く」（機械も使う、人力作業もこなす）教育環境には感心をした。

【上廻】

昭和6年に設立された会社で歴史もあり、多方面の事業をされている会社であった。

高性能林業機械を導入して人手不足に対応されていたが、規模の大きさに驚いた。

安来市でまったく同じことはできないが、行政、森林組合、山主等と一緒に山を守り、山での生産性を高め、山主に利益をもたらすと共に雇用拡大につなげていかなければならない。

【永田】

高度経済成長期に多くの若者を労働力として都市に送り出した農山漁村は急速な人口減に見舞われた。地方の産業の担い手、特に山林労働者不足が深刻化している中、数百haのまとまりを持った社有林を持ち、市内に材木供給が出来、木質バイオマス発電所も稼働している等条件が良く、さらに作業システムも最新設備で高性能林業機械の導入も行っているが、山林事業部は赤字決算という説明であった。

安来市においても、国産材の価格の下落等要因は様々あるが、木材輸入は全面自由化されて以降、安価な外材が大量に流入、住宅工法の変化等により木材価格は低迷が続き山林

所有者は厳しい状況にある。

島根県も「県版総合戦略」で林業の成長産業化が位置付けられており、市においても高性能林業機械の導入等に協力を行っているが、路網整備による低コスト生産の取り組み等、引き続き支援していく必要がある。

【丸山】

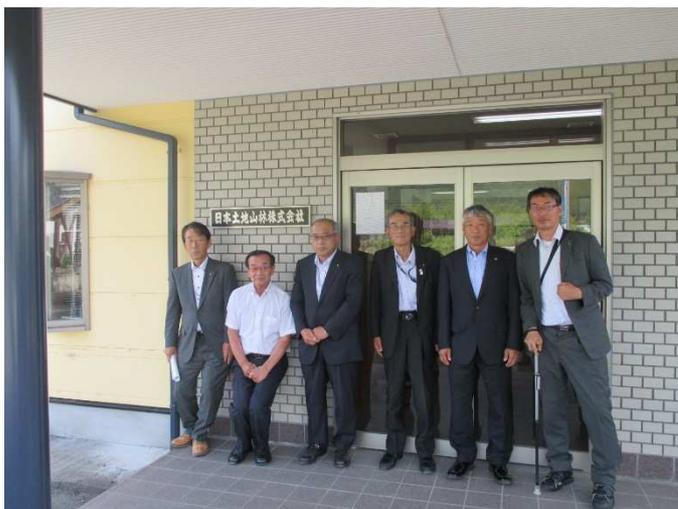
事務所内で概要の説明を受け、機械の使用状況の動画を拝見した。

山林の樹木の分布状況や今後の展望や、機械性能、林業女子のニーズについて伺った。

【金山】

当社はタワーヤード、ハーベスタ等の高性能林業機械を利用した効率的な伐採作業により省力化、コスト削減を実施し、先進的な林業経営を推進しておられた。

従来のスイングヤード、プロセッサ、フォワーダでの間伐から急傾斜地での作業を可能とする最新式のタワーヤードを新たに導入し中距離の架線集材による素材生産をされ、50年生までは列状間伐を行い、300年生までは適期に定性間伐を繰り返し 250～300本/ha に仕立てることを目標とされている。



使用機材の新たな取り組みとして、現場での DV、KONRAD 社製 WOODLINER3000（ウインチ能力 2.5t、ディーゼル 100HP 搭載、本体重量 1.25t、サイズ L=1.6m W=1.5m H=0.66m）の映像を拝見し、作業効率の省力化に驚愕したが、1902ha の社有林があるから導入可能であり、弊市の森林組合あたりでは自走式搬器（ウッドライナー）導入は難しいのではと判断した。

2. 滋賀県長浜市

◆対応者

都市建設部道路河川課

産業観光部小谷城 SIC 周辺新産業拠点整備室

◆場 所

長浜市役所会議室 滋賀県長浜市八幡東町 632 番地

◆市 勢

*市制施行 平成 18 年 2 月 13 日

*人 口 119,748 人(H29.4.1)

*世帯数	45,096世帯
*面積	681.02 km ²

◆特徴

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接している。周囲は伊吹山系の山々と、ラムサール条約の登録湿地でもある琵琶湖に面しており、中央には琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された豊かな湖北平野と水鳥が集う湖岸風景が広がり、県内でも優れた自然景観を有している。

また、北國街道やこの街道と中山道を結ぶ最短経路であった北國脇往還沿道や、戦国時代を偲ばせる長浜城や小谷城跡、賤ヶ岳、姉川古戦場をはじめ、竹生島の宝厳寺、渡岸寺の国宝十一面観音をはじめとする数多くの観音が祀られる観音の里など、すぐれた歴史的遺産を有している。

この地域は、京阪神や中京、北陸の経済圏域の結節点としての位置にあり、京都市や名古屋市からはおおよそ 60 キロメートル圏域、大阪市からはおおよそ 100 キロメートル圏域にあり、JR 北陸本線・湖西線や北陸自動車道を主な広域交通軸として、これらの経済圏域と利便性高く結びついている。さらに、平成 18 年 10 月に JR 北陸本線・湖西線が直流化されたことにより、「琵琶湖環状線」として京阪神圏はもとより、北陸圏域への交通利便性が今後ますます高まるものと考えられる。

◆議会の状況

*議員定数（条例定数：26 人、現員数：26 人）

*会派構成：新しい風（9 人）、改革ながはま（6 人）、日本共産党長浜市議団（3 人）
要（3 人）、公明党（2 人）、所属会派なし（3 人）

*常任委員会：総務教育（9 人）、健康福祉（9 人）、産業建設（8 人）、予算（26 人）

*事務局職員数：事務局長以下 7 人

◆概要：（資料別紙）

○スマートインターチェンジについて

《説明概要》

- (1) 整備までの経緯について
- (2) 整備後の効果、活用策について
- (3) 今後の課題等について

◆質疑（抜粋）

Q. 事業費の市負担分の財源は。

A. 市道整備に係る部分は交付金、その他は単費。財政部局に確認はしていないが、合併特例債を充てた部分もあるかもしれない。

Q. スマート IC の設置に対して市民の反応は。

- A. 付近住民の利便性向上やトラック等の運送の効率化に役立っていると聞いている。
- Q. 付近の IC の 1 日の交通量は。
- A. 長浜 IC は約 6,200 台、木之元 IC は約 3,500 台。
- Q. スマート IC 設置推進にあたって必要なことは何か。
- A. 地域資源、素材を見つけ、それをスマート IC でどう活かして広げていくか、地域振興のビジョンを描くことが重要だと思う。
- Q. スマート IC 設置基準はすべて満たしていたのか。満たしていない部分を協議や特例等で補っていったのか。
- A. すべて基準を満たしていた。

◆考 察

【澤田】

小谷城スマートインターチェンジは、木之本 IC と長浜 IC 間 13.8 km の中間地点にあるインターチェンジである。平成 18 年に整備促進期成同盟会設立準備委員会を立ち上げ、平成 21 年に設置勉強会を経て、平成 23 年に地区協議会（法定協議会）が発足し、平成 29 年 3 月 25 日に本線直結型のスマートインターチェンジとして開通した。

スマートインターチェンジの接続道路は、双方向とも県道であり、既設のバスレーンを利用して整備がされた。計画交通量は 2,000 台/日を試算し総事業費は約 33 億円であり、このうち長浜市の負担金は約 1 億 2,600 万円である。

スマートインターチェンジの設置理由としては、歴史物の観光振興や災害時の避難経路・緊急輸送路の確保、救急搬送ルート確保などがある。また市行政にスマートインターチェンジ周辺新産業拠点整備室を設けて、計画地周辺の活性化策を検討された。結果として農業を軸に「スマートインターチェンジ周辺 6 次産業化拠点構想懇話会」を設置し、地元や地権者は勿論、産官学を含めて検討が行われている。スマートインターチェンジの設置要件は、①既設 IC から 5 km 以上の箇所、②高速道路本線の幾何構造条件、③接続道路、④本線の区間などがある。小谷城スマートインターチェンジは、全ての設置要件に合致し、国の必要性に関しても申し分なく成るべくしてなったスマートインターチェンジであると



感じた。しかし現状の交通量は平日 900 台/日（GW 時 1,500 台/日）であり、計画交通量と比較すると大差がある。本年 3 月に開通したばかりであり、知名度やナビシステムの普及に暫くは時間がかかると思われるが、活力ある拠点づくりを目指し「オール長浜」で取り組む姿勢が課題を解決できると考える。

本市は新設スマートインターチェンジに向けて、国による準備段

階調査前の自治体での「広域的検討」を行っている最中であるが、スマートインターチェンジの必要性について、市民や既存企業などの理解を経て意識の醸成や機運の盛り上げを図るなど、乗り越えなければならない課題が山積していると考える。

【佐伯】

スマートインターチェンジ設置の条件等はすべてクリアした上で、黒壁のまちづくりや戦国時代の観光資源を背景とした事前の取り組み、またインター周辺の農業6次産業化推進の事後の取り組みと、隙のない施策展開に感心した。

ただ、インターでのPR方法（案内看板等）にはもう一工夫あればと感じた。

【上廻】

平成18年9月に促進期成同盟会設立の準備委員会を設立し、平成29年3月に竣工開通の長い歴史がある。

整備効果として、利便性の向上、観光振興、産業振興、救急医療体制の強化、災害時の避難経路の確保を挙げておられた。特に産業振興の関係で農業振興に力を入れておられ非常に勉強になった。

【永田】

安来市長は昨年の市長選挙においてスマートインターチェンジの整備を行うとのことであり、視察を行ったが、長浜市は人口約12万人、小谷城スマートICの交通量は1日最大で1,500台と計画交通量2,000台を下回っている。総事業費33億円のうち市の持ち出しは1億5,000万円と少ないが、安来市に置き換えて1日の計画交通量、費用対効果を考えた場合、事業主体業者が受けてくれるのか。必要性を十分精査する必要がある。

【丸山】

市役所でスマートインターチェンジの事業概要や検討経過などの説明を受け、実際に現地を利用して、交通量や外観等を観察し、写真に収めた。

計画交通量2,000台/日でありながらも実際には約900台で、指導が入っていても、この交通量と需要で、本線直結型フルランプ（双方向乗降）の不完全クローバー型で約33億円の総事業費の内、市の負担が約7千万円で、しかも接続市道の測量設計や用地補償に対する負担で済んでいる事、交付金や合併特例債等の財源が充てられた事をお聞きし、これまでの要望活動が実ったのであろうが、充分、安来市での設置に現実味を感じた。

既存ICと5キロ以上離れている事、R2000以上取れる事が要件との事で、安来市においては、私案である荒島街道との交点辺りが、ちょっと距離が短いけど相応しいと思った。

ヤンマーからの提案である「湖北オーガニックエナジータウン」構想など、「産学官金」が連携し、長浜市のアグリビジネスモデルをオール長浜で展開したのが評価されたようで、それなら、広瀬を中心とした中世と荒島を中心とした古代の歴史をモチーフに、観光ビジネスモデル

を立てて、荒島街道との交点辺りでの設置の誘致可能だと思った。

【金山】

開通により利便性の向上はもちろん観光、産業振興、救急医療体制の強化、災害時の新たな避難経路の確保、地域間の交流促進、連携強化等の効果が期待される。

この具現化に向け「小谷城スマートインターチェンジ周辺 6 次産業化拠点構想懇話会」を設置し議論を重ね、農業を軸に地域の農林水産物を有効活用し新しい産業やサービスを生み出す拠点づくりに取り組むこととされている。

小谷城スマート IC は十数年に及ぶ要望活動等が実ったの開通であり、弊市のスマート IC 開通に向けては、利便性はもちろん災害時の新たな避難経路の確保、地域間の交流促進、連携強化等をいかに具体化して関係機関に説明できるかが鍵ではないかと感じた。



3. 兵庫県南あわじ市

◆対応者

農林水産部食の拠点推進課

◆場 所

南あわじ市役所会議室 兵庫県南あわじ市市善光寺 22 番地 1

◆市 勢

*市制施行 平成 17 年 1 月 11 日

*人 口 48,427 人(H29.3.31)

*世 帯 数 19,226 世帯

*面 積 229.01 km²

*産業分類就業者比率

【第 1 次産業】 25.3% 【第 2 次産業】 24.0% 【第 3 次産業】 50.0%

◆特 徴

南あわじ市は合併により平成 17 年 1 月 11 日に誕生。

淡路島の南部に位置し、南には世界最大を誇る鳴門海峡の渦潮、西には白砂青松の慶野松原、東には灘黒岩水仙郷、中心には温暖で肥沃な三原平野が広がり、魚介類や野菜、乳製品、淡路和牛などさまざまな「食」を生み出している。また、500 年の歴史を誇る淡

路人形浄瑠璃や日本三大瓦のひとつである淡路瓦に代表される歴史と文化が豊かな地域である。

三原平野を中心に半径 10 km 圏内におさまるコンパクトな生活圏を形成し、京阪神や四国とも神戸淡路鳴門自動車道で結ばれており、たいへん便利な立地である。1 年を通じて多くの観光客が南あわじ市の魅力を楽しんでいる。

◆議会の状況

*議員定数（条例定数：18 人、現員数：18 人）

*会派構成：ゆづるはクラブ（4 人）、市民連合・無所属クラブ（4 人）、
日本共産党南あわじ市議団（2 人）、政真クラブ（2 人）、
誠道クラブ（2 人）、無所属（4 人）

*平均年齢：67 歳

*常任委員会：総務（9 人）、産業厚生（9 人）、議会広報公聴（6 人）

*特別委員会：政治倫理条例に関する調査（7 人）

*事務局職員数：事務局長以下 6 人（定数 7 人）

◆概要：（資料別紙）

○あわじ島まるごと食の拠点施設について

《説明概要》

- (1) 整備までの経緯について
- (2) 整備後の効果及び活用策について
- (3) 運営形態について
- (4) 今後の課題について

◆質疑（抜粋）

Q. 農家一戸あたりの平均耕作面積は。

A. 0.8ha。

Q. 集落営農等の施策の推進状況は。

A. 圃場整備や集落営農はあまり進んでいない。人・農地プランは 19 地区で策定している。

Q. 拠点施設来場者の地元と県外の割合は。

A. 推定で 5 割弱が地元。

Q. 農産物の売れ残り対策は何か考えているか。

A. 加工販売や配達、ネット通販等による販売力強化を検討中。

Q. 出店者の選定方法は。

A. 基本的にプロポーザルで選定。しかし撤退した店もあり直営化しているところもある。

Q. 仕事帰りの買い物客を取り込むために営業時間の延長は考えていないか。

A. 直売所は午後には商品が減り客も減る。実際に 17 時には閑散としているので延長は考えていない。

◆考 察

【澤田】

南あわじ市は、温暖で肥沃な三原平野が広がり京阪神への「食」の供給基地として大きな役割を果たしている。恵まれた地理条件と気候条件に加え、高度な農業技術を生かして同じ土地で年三回農作物を栽培する三毛作が営まれている。また酪農・畜産も盛んで「神戸ビーフ」「松坂牛」のもと牛になる淡路和牛の生産地でもある。さらにタイやハモ、アジ、ハマチ、フグなど新鮮な魚介類が多く水揚げされている。「食がはぐくむふれあい共生の都市（まち）」を目指して、農業や漁業などの第一次産業を中心としたまちづくりをしている。



農業生産者の高齢化および所得確保志向により、玉ねぎや白菜の重量野菜から軽量野菜のレタス栽培にシフトが進みつつあり、約 60 戸/年の農家が減少する状況にある。しかし農漁業は単に第一次産業ではなく生命維持産業、健康増進産業、美容産業、医療産業など将来性豊かな産業であると考え、消費者の動向を的確に捉え、儲かる農漁業の展開を考えた。

国が示す農業改革や農漁業を主軸とした地域創成、農漁業者の所得向上、地域経済の活性化などから、あわじ島まるごと食の拠点施設「美菜恋来屋」を整備された。工事費は約 9 億 1,000 万円で平成 27 年 3 月 21 日に指定管理で供用を開始した。立地場所の近隣には農業体験交流施設の「淡路ファームパーク・イングランドの丘」があり、多くの観光客が訪れている。「美菜恋来屋」のレジ通過者数は 176,944 人/年（544 人/日）で、売上額は 4 億 3,000 万円/年（1,325 千円/日）、雇用者数は出向 1 人、プロパー 4 人、パート 20 人の合計 25 人となっている。

経営状況は、初年度に赤字決算となり市行政が指定管理料を拠出し、平成 29 年度は黒字決算となった。加工品事業を中心に第 2 期工事も計画中であるが現在は棚上げ状態となっている。課題としては、農産物出荷者の拡大や売れ残り処理、地元購買者の拡大などが挙げられる。

本市の道の駅「あらエッサ」は 2016 年の全国道の駅ランキングでは 10 位に入ったが、新鮮な農産物の販売、加工品の販売、各種イベントなど、更なる創意工夫次第では、来場者を満足させることや農業生産者の所得向上に繋がるものとする。

【佐伯】

たまねぎ、レタス等を中心とした農作物や酪農、畜産、さらには近海漁場に養殖と、食のブランド「淡路島」を大いにPRされていた。また、吉備国際大学地域創生農学部の設置により農業経営の確立を目指した取り組みは市の努力の賜物にうかがえた。

しかし、食の拠点施設「美菜恋来屋」については、今度改善する方法があるように感じた。

【上廻】

淡路島といえばタマネギがすぐに頭に浮かぶが、それ以外にも野菜、肉（淡路牛）、海産物と多くの特産があり、それを販売している「美菜恋来屋」の規模の大きさに驚いた。特産品をいかに全国にPRし、人に来てもらうか、安来の道の駅「あらエッサ」の振興の参考になった。

また、特産品を使った加工品も多く販売されており、安来市も官民一体となって地域振興を図っていかねばならないと感じた。

【永田】

あわじ島まるごと食の拠点施設整備の必要性と目的など色々説明を聞いた。人口約48,000人余りの市にこんな立派な施設ができたのかと驚いた。神戸、大阪にも近いということもあるが、2015年農林業センサスの農産物販売金額、規模別経営体数等を安来市と比べると南あわじ市が優れている。それを反映して拠点施設の品揃えも良く立派なものとなっている。個人農業所得が良いということは市の農業政策が良いということに結びつく。安来市にも類似した施設があるので、この施設の充実が地域の活性化を促すことになる。

今後の安来市の農業政策と併せて考える必要がある。

【丸山】

まず市役所で市職員から概要についての説明を受け、質疑し、実際に現地（あわじ島まるごと直売所美菜恋来屋）に行き、レイアウトや規模や客の入りを実際に観察した。

職員の説明と資料は的を射ていて、市や地域や農業の強みと弱み、課題を把握しており、生産者のストーリーや食材、成分の健康への効能など、消費者が何を欲しているか、消費者の動向を的確に捉え、儲かる農業等を展開する必要性を感じておられる問題意識を感じた。

農産物出荷者と農産物出荷者加工品と業者等との手数料の違いの意図と反響、7時30分に搬入して売れ残りを18時から搬出する事や開店時間が9時～18時である事への反響等を質問した。

4200万円の赤字との事ですが、そもそもの施設の規模の問題、淡路ファームパークイングランドの丘入園者50万人の観光客を当てにした経営では、（玉ねぎ一網送料サービス等の思い切った事をしない限り）安定せず、需要を拡大して軌道を安定させる為には、職員の方も課題とされておられる通り、地元の方々に購入していただく対策が必要だと思い、仕事帰りの主婦が利用し易いように、開店時間の延長を提言した。

余談ですが、6月議会一般質問で話題にした『バーチャンリアリティー』の担当者がちょうどこの担当者で、不思議なご縁を感じ、その点でも、また視察に行きたいと思った。

【金山】

南あわじ市の温暖な気候を活かし水田多毛作栽培が行われており、「安心」「安全」「高品質本物志向」「販売促進」「ブランド化」の取り組みは参考になった。

他方、大規模化、法人化、集落営農等は遅れており、大消費地である大阪、神戸を近くに抱えながら珍しいと思った。

宿泊した市内のホテルには修学旅行2団体、海外旅行客1団体が滞在しており、地元の特産品を堪能したと想像する。

安来市は島根県内屈指の農業先進地であり、大規模な圃場整備も進んでいるが、インバウンドの時代、弊市に宿泊してもらった時に特産品として堪能してもらえるもので何があるのか、思い当たるものは少ない気がする。

安来の農業の大規模化とはまた違った、小規模個別完結型複合経営が主体となった、生産者の競争力及び手間をかけた良質商品の特化の取り組みは参考になった。



以上